

奥武蔵中生徒が 吾野園へうちわ寄贈

手書きメッセージに思い込め



吾野園を訪問し、うちわを寄贈した生徒会のメンバー。右端は加藤施設長

飯能市立奥武蔵中学校（安田孝之校長、全校生徒48人）の生徒たちがこのほど、同市南川の介護老人福祉施設吾野園に手書きのメッセージなどが書かれたうちわ約50枚を寄贈した。以前は生徒会が中心となつて吾野園でボランティア活動を行っていたが、コロナの流行により活動が出来るにいた。そこで、直接顔を合わせなくても思いを伝えられる方法はないかと考え、うちわにメッセージなどを書きプレゼントする事に。本来なら夏の期間に渡す予定だったが、感染者数が増加し、延期となつて

うちわには、ボランティアに参加した生徒たちが「コロナに、暑さに負けず頑張ってください」「健康に楽しい日々をお過ごしください」「熱中症にならないために、気をつけて涼しくお過ごしください」などとメッセージを書き、総合文化部に所属する橋本結和（ゆなさん）（2年）が金魚のイラストを描いた。

吾野園へは、生徒会を代表して生徒会長の小林成美さん（3年）、大澤宥太郎さん（同）、荒井咲希さん（1年）の3人が訪問し、小林さんが「皆でうちわを作りました。本当は夏休みに渡す予定だったので季節がずれてしまっているが、一枚一枚メッセージを書いて心を込めて作ったので、ぜひ使ってもらったり、飾ってもらえたら嬉しい」と加藤施設長に手渡した。

加藤施設長は、「コロナ禍の前に行われていた交流会では、利用者さんにもこやかに楽しんでいきた。今回もらったうちわには、生徒さんたちの気持が言葉で書いてあるので、利用者さんに配る時も生徒さんたちの思いを伝えたい」と感謝した。



手書きのメッセージや金魚のイラストが描かれているうちわ